

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：30120

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H03970

研究課題名(和文) 特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a program to improve nursing teachers' skills for nursing students with special needs

研究代表者

安酸 史子 (YASUKATA, FUMIKO)

日本赤十字北海道看護大学・看護学部・教授

研究者番号：10254559

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)： 障害学生支援を専門とする大学内組織に所属し発達障害のある学生への支援を行ったことがある相談員および発達障害のある看護学生への支援に関する研究を行ったことのある教員32名に対してデルファイ調査を行い、発達障害支援において重要と考えられる能力や態度14項目(アセスメント力、教育力、連携力、障害学生に対する態度に分類)が抽出された。我々が先行研究で作成したガイドラインとデルファイ調査結果をもとに「特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラム」を開発した。
このプログラムを福岡と東京で看護教員を対象に実施し、2～3か月後に参加者にFGIを実施し、プログラムの効果検証を行い、効果が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、第一に専門家に対するデルファイ調査によって、特別な支援を要する看護学生への学習支援内容の明確化と支援に要求される教師の能力を具体化することが出来たこと。第二に先行研究で作成した適応支援ガイドラインとデルファイ調査結果をもとに研究者間で検討を重ねて特別な支援を要する看護学生への支援を行う教師の教育力プログラムを開発したこと。再三に実際に東京都福岡で研修を実施し、実施3か月後にフォーカス・グループ・インタビューでその効果を検証したことである。
合理的配慮が義務化された中で、発達障害傾向のある学生に対する支援に求められる教師の教育力プログラムを実装化できた意義は高いと考える。

研究成果の概要(英文)： A Delphi survey was conducted on 32 counselors who belong to an organization within a university that specializes in supporting students with disabilities and have provided support to students with developmental disabilities, and 32 faculty members who have conducted research on supporting nursing students with developmental disabilities, and 14 abilities and attitudes considered important in supporting developmental disabilities (classified into assessment ability, teaching ability, collaboration ability, and attitude toward students with disabilities) were extracted. Based on the guidelines we created in our previous research and the results of the Delphi survey, we developed a "program to develop teaching skills for nursing students who require special support." This program was implemented in Fukuoka and Tokyo targeting nursing faculty members, and after 2-3 months, FGI was administered to the participants to evaluate the effectiveness of the program, which was confirmed.

研究分野：看護教育学

キーワード：発達障害学生

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2016年度には障害者差別解消法さらには発達障害者支援法の一部を改正する法律が施行されており、障害があっても学ぶための環境整備や支援が行われるようになったことから、今後も発達障害を含む何らかの障害のある学生の増加が予想される。

発達障害のようにある特定の課題に対して遂行の困難を示す障害は、障害が一見して分からないということもあり、その対策が講じにくいという特徴がある。そのため、特別な支援を要する学生に対しては、技術演習や臨地実習を担当する教員が、試行錯誤しながら支援や教育を行っている現状がある。

我々の研究グループは、科学研究費補助金(基盤研究B)(2016~2019年度)の助成を受け、発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成を作成した。しかしながら、ガイドラインがあったとしても、それだけで支援がすぐに行えるようになるものではない。実際に支援を行うためには、支援する側に力量が要求される。当然、発達障害といった特別な支援を要する学生の教育においては、通常の教育よりも困難であることが多く、支援者に期待される力量はより多くなる。そこで、支援を行う教員にどのような能力が必要かを明らかにし、教員の能力を向上させていくことが必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は特別な支援を要する看護学生への支援を行う教師の教育力育成プログラムの開発をすることを目的とする。具体的な目標は以下の3点である。

特別な支援を要する看護学生への学習支援内容の明確化と支援に要求される教師の能力の具体化

特別な支援を要する看護学生への支援を行う教師の教育力プログラムの開発
開発したプログラムの効果検証

3. 研究の方法

(1)デルファイ調査:調査内容は、2021年に全国の看護師養成機関1031校に対して行った「特別な支援を要する看護学生の特徴とその学修支援内容の明確化に関する調査」の結果からリストアップされた発達障害および発達障害傾向のある看護学生への支援に必要な能力65項目である。対象者は、大学内の学生支援センター等で発達障害のある学生への支援を行ったことがある相談員やコーディネーター、あるいは発達障害のある看護学生への支援に関する研究発表を行ったことのある看護教員を対象に実施し、発達障害および発達障害傾向のある学生への特別な支援や教育を行う教師に必要な能力を明らかにする。(順天堂大学研究倫理申請審査を受け実施)

(2)プログラムの開発:我々研究グループが科学研究費補助金(基盤研究B)(2016~2019年度)の助成を受け作成した発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインとデルファイ調査の結果をもとに、「看護教育における発達障害および発達障害傾向のある学生への支援を行う教師の教育力育成プログラム原案」を作成する。

(3)プログラムの効果検証:看護基礎教育機関において発達障害および発達障害傾向のある学生への特別な支援や教育を行う教師に対して作成した研修プログラムを実施し、3か月後にフォーカス・グループ・インタビューを実施して、効果検証を行う。

(4)効果検証の結果をうけ、「看護教育における発達障害および発達障害傾向のある学生への支援を行う教師の教育力育成プログラム」を作成する。

4. 研究成果

(1). デルファイ調査結果

第1回調査は132名を対象とし44名から回答が得られた(回収率33.3%)。有効回答率は100%であった。調査項目において、一致率が80%を上回った項目は1つもなかった。最も高い一致率は、【人権を尊重する態度】が非常に重要で63.6%であった。

第2回調査は、第1回調査に回答した44名を対象とし32名から回答が得られた(回収率72.7%)。有効回答率は100%であった。2回の調査に回答した対象者の属性は男性13名、助成19名。年代は50代が最も多く14名、次に60代9名、40代6名、30代3名。所属部署は学部が14名、支援部署が12名、その他3名、未回答3名。職種は教員が最も多く26名。支援経験年数は6~10年が11名、16~10年が8名、11~15年が7名、1~5年が4名であった。調査の結果、一致率が80%を超えた項目は、[教育方法を工夫する力]が非常に重要で、81.3%のみであった。2回目の結果において、非常に重要と重要を合わせて95%を超えている項目を抽出したところ、全65項目中14項目であった。(表1)

この14項目を大別すると、アセスメント力(5項目)、教育力(5項目)、連携力(2項目)、障害学生に対する態度(2項目)の4つとなった。

非常に重要と重要な合計が59%未満の項目は2項目であった。(表2)

表1. 非常に重要と重要の合計が 95%を超える項目

	非常に重要と重要の合計
[観察により学生の課題を把握する力]	100.0%
[観察により学生の困っていることを把握する力]	100.0%
[観察により学生の変化に気づく力]	100.0%
[教育方法を工夫する力]	100.0%
[支援者間の連携調整をする力]	100.0%
[合理的配慮の知識]	100.0%
[学生の(発達障害)特性を把握する力]	96.9%
[学生の成長を承認する力]	96.9%
[学生が自らの課題に気づけるよう話す力]	96.9%
[学生に具体的な指示をする力]	96.9%
[学生に合った具体的支援を選択する力]	96.9%
[教師自身が助けを求める力]	96.9%
[他教員と連携する力]	96.9%
[人権を尊重する態度]	96.9%

表2. 非常に重要と重要の合計が 50%未満の項目

	非常に重要	重要	どちらでもない	重要ではない	全く重要ではない
[心理テストの知識(見方)]	12.5%	34.4%	50.0%	3.1%	0.0%
[対話で学生の感情を引き出す力]	12.5%	28.1%	53.1%	6.3%	0.0%

(2). 特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラム

プログラムの意図

デルファイ法の調査結果により明らかになった専門家が「特別な支援を要する看護学生」に対する教育力として重要と思う支援項目は、アセスメント力(5項目)、教育力(6項目)、連携力(2項目)、障害学生に対する態度(1項目)の14項目であった。

内容的には、観察により学生の特性をアセスメントする力とその基礎となる発達障害に対する正確な知識、学生が自ら自分の特性と課題に気づけるように話し、学生の特性に合わせた教育をする力、そして支援者間・教員間で連携する力、人権を尊重する態度である。

教育力育成プログラムを開発するにあたり、これらの内容を全体としてどのように組み立てるかについて話し合い、講義・演習を1日のプログラムに校正するために、知識項目、技能項目、態度項目に分類し直した。

研修の目的

支援する能力は教員の日々の実践の繰り返しの中で向上していくものであるため、本研修の目的は、学生への関わりへ反映することだけでなく、関わり後に、客観的に自らの支援の評価ができることとする。

研修の目標

目標1：発達障害の分類とそれぞれの行動特性と、合理的配慮の考え方についての基礎知識を習得する。

A. 知識

[(発達障害) 特性を把握する力] [合理的配慮の知識] [課題の原因を見極める力]

目標2：学生の行動から学生の自覚の有無にかかわらず困っていることを見つけ、学生本人と対話を通して共通に理解できる

個別な支援の方法について考え、大学として、教員として、実現可能な具体的な合理的配慮の方法、支援について述べるができる。

B. 技能

B-1 技能：対象者の行動から困っていることを理解する

[観察により困っていることを把握する力] [課題の原因を見極める力]

B-2 技能：対象者とのコミュニケーション、わかりやすい指示

[対象が自らの課題に気づけるよう話す力] [対象に具体的な指示をする力]

B-3 技能：個別の具体的支援

[教育方法を工夫する力] [対象に合った具体的支援を選択する力]

B-4 技能：連携する力

[支援者自身が助けを求める力] [支援者間の連携調整をする力]

[他支援者と連携する力]

目標3：特別な支援を要する学生の人権を尊重した関わりについて説明することができる。

C. 態度

[人権を尊重する態度] [対象の成長を承認する力]

<研修会の方針とSTEP>

方針 発達障害や合理的配慮に関する正しい知識の提供をする。

講義内容に具体例をちりばめて、理解しやすいように工夫する。

参加者の経験が語れる場を作るため、グループワークを取り入れる。

参加者からの発表の後に、専門家によるフィードバックを入れる。

1日で完結のプログラムとし、遠方の参加者も参加できるように時間を工夫する。

<研修のタイムスケジュール>

時間		
9:30～9:40	導入、趣旨の説明	
9:40～10:30	Step 1：自己紹介、参加者が経験した事例の紹介	参加者の経験をグループで共有する
10:30～12:00	Step 2：講義A 「発達障害の行動特性・合理的配慮」 (A、B-1、C)	
12:00～13:00	昼休憩	
13:00～14:00	Step 3：講義B 「学習場面ごとの困りごとと支援の具体例」 (B-2、B-3、C)	
14:00～14:20	Step 4：講義C 「支援の組織化」(B-4)	
14:20～14:30	休憩	
14:30～15:00	Step 5：グループで一つの事例の再検討	
15:00～15:30	Step 6：グループ発表及びフィードバック	専門家によるフィードバック

(3). プログラム実施3か月後のフォーカス・グループ・インタビュー結果

1) 参加して特に印象に残ったこと

<発達障害に対する知識の再確認ができた> <発達障害の分類や特性について学べた> <今まで関わってきた学生の行動特性が理解できた> <合理的配慮と教育的支援が明確に理解できなかった> <自大学の特性を知ることが出来た> <書体の工夫など、自分の教育に活かせる> <具体的支援事例についてディスカッションをして、支援を学んだりアドバイスがもたらされた> <学んだ支援方法を学内教員に共有した結果、関心が高まった> <人間関係に困難を感じながらも看護学を学んでいる学生の頑張りを認めることが重要> <相手を変える、変えようとするのではなく、教育方法を工夫するべきだと学べた>の10サブカテゴリー、【講義やグループワークを通じた発達障害の学修により、具体的な支援方法がより深く理解できた】【所属組織における障害学生支援への関心の高まりにつながった】【教育者としての認識の変化】の3カテゴリーに分類された。

2) セミナーで学習したことを教育に反映した内容とその成果

<障害特性に合わせた個別のサポートをして、課題を完了できるよう支援した> <書体を変更する、伝え方を工夫したところ学生の反応が変化した> <単位習得に向け、学生にすべての課題を明示して、試行錯誤するよう促した> <再実習の学生には、実習場での課題を本人と話し合った> <学生と教員の特性を踏まえて、実習場での配置を教員間で検討> <研修会で学んだことを教育に反映させてみようとしたが客観的に自分をとらえられない学生の支援はやはり難しい> <実習場での学生のコミュニケーションの課題が難しい> <実習場でのトラブルやサポートに課題がある> <教員としてどのように目標達成に向けて関わればよいのかが課題>の9サブカテゴリー、【研修会での学びをもとに教育方法や支援体制を再考した結果、学生の困難が減少した】の1カテゴリーに分類された。

3) 将来発達障害の学生に対する教育はどのようになっていけばよいと思うか

<本人自身が特性に気づき助けを求める力を構築する教育> <機関が決まっているため、到達水準までが癖を伸ばすことが難しい> <教育者の障害に対する理解や支援のスキルアップの必

要性><高校と連携し教員の教育力の向上を図る><病院の指導者と連携できる大学教員のコミュニケーション能力><到達目標を可視化し、到達方法を編み出す><支援方法が分かる人が増えることで特性による困難を減らす><すべての学生に看護学を学んでもらえる教育生成の構築><発達障害であることを本人や保護者も受け入れがたい風潮><教育者も学生も自身の特性を理解し合う関係作り>の10サブカテゴリー、【本人自身が特性に気づき、助けを求める力を構築する教育】【教育者としての教育力の向上と支援者間の連携】の2カテゴリーに分類された。

4) 今後のセミナーに期待する内容

<障害の特性や状況に応じた具体的な支援事例を学びたい><学んでも対象によって支援が異なるので、支援を深化させる研修を行いたい><困難事例の検討は状況が分からない中では難しい><良かったことや工夫したことを探求する事例検討><予算や教員配置など国や経済的支援が必要><他大学の教員とのピアサポート>の6サブカテゴリー、【障害の特性に応じた支援を学んだうえで、支援を深化させることが出来るような研修】【良かったこと(Good Practice)や授業等を含めた教員の工夫を探求する事例検討】【経済的支援や教員配置について大学を越えて共有・検討する】の3カテゴリーに分類された。

(4) 特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの適切性と効果

我々の研究グループが、科学研究費補助金(基盤研究B)(2016~2019年度)の助成を受け作成した「発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドライン」で適応支援に必要な知識はある程度明らかにできていた。しかしながら、ガイドラインがあったとしても、それだけで支援がすぐに行えるようになるものではない。実際に支援を行うためには、支援する側に力量が要求される。当然、発達障害といった特別な支援を要する学生の教育においては、通常の教育よりも困難であることが多く、支援者に期待される力量はより多くなる。そこで、本研究においては、2021年に全国の看護師養成機関1031校に対して「特別な支援を要する看護学生の特徴とその学修支援内容の明確化に関する調査」の結果から発達障害および発達障害傾向のある看護学生への支援に必要な能力65項目をリストアップし、さらに発達障害学生への支援の専門家32名にデルファイ調査を行い、支援に必要な能力を14項目に精選している。14項目はアセスメント力が5項目、教育力が5項目、連携力が2項目、障害学生に対する態度が2項目であった。専門家が重要と考える支援に必要な能力は、単に発達障害に関する知識量ではなく、学生が自らの課題に気づけるよう話す力や教師自身が助けを求める力、他教員と連携する力が、人権を尊重する態度などが必要な能力としてリストアップされた。

こうした能力の育成をプログラムに入れ込むのは大変であったが、参加型の研修プログラムとして5時間の「特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラム原案」を作成した。研修実施のあと3か月後のフォーカス・グループ・インタビューでは、知識に関しては、【具体的な支援方法をより深く理解できた】 【教育者としての認識の変化】と話し、セミナーで学習したことを教育に反映したかどうかでは、【研修会での学びをもとに教育方法や支援体制を再考した結果、学生の困難が減少した】と直接的な効果について具体的に語る参加者が複数存在した。今後のセミナーに期待する内容としては、障害特性によって対応が異なるので、具体的な支援事例を生日、【障害の特性に応じた支援を学んだうえで、支援を深化させることが出来るような研修】や【良かったこと(Good Practice)や授業等を含めた教員の工夫を探求する事例検討】など更に応用編の研修への期待も述べられた。今回の参加者は発達障害学生への支援に関してモチベーションが高く学ぶレディネスが高い参加者であったと考えられるが、それを割り引いて考えても今回作成した研修プログラムの内容妥当性は高いと言える。と考える。

今回のプログラムの講義部分については、我々の看護師養成課程における合理的配慮の実装化に関する研究グループのホームページ RANS(Reasonable/Rational Accommodation in Nursing Schools) <https://www.yasukata-b.jp/> に動画としてアップ予定であり、講義内容の一部は事前に視聴したうえで、研修会に参加する方式とし、遠隔地の人も参加できる無理のない日程の中で、十分に参加者自身の経験を語り合っ共有し、専門家によるフィードバックの時間をゆっくりとれるようなプログラムしてはどうかと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西村優紀美	4. 巻 48
2. 論文標題 発達障害のある学生が合理的配慮を受けるまでのプロセス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日高艶子	4. 巻 48
2. 論文標題 発達障害のある学生を支援するための学校の体制・しくみづくり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小浜さつき	4. 巻 48
2. 論文標題 発達障害にy堀合理的配慮の申請を行った看護学生の支援経験	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 2732
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北川明	4. 巻 48
2. 論文標題 看護教育における合理的配慮をどう考えるか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 14-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Yuko Ota, Chieko Kamiyama, Akira Kitagawa, Tuyako Hidaka, Yukimi Nishimura, Fumiko Yasukata
2. 発表標題 Difficulties Experienced by Teachers Who Assist Nursing Students with Special Support
3. 学会等名 Eafons 25th
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村優紀美、北川明、佐藤亜紀
2. 発表標題 シンポジウム：発達障害傾向のある学生への適応支援について
3. 学会等名 日本教師学学会第22回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>看護師養成課程における合理的配慮の実装化に関する研究グループRANS https://www.yasukata-b.jp/%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%BC%E7%B4%B9%E4%BB%8B/ 看護師養成課程における合理的配慮の実装化に関する研究グループ https://www.yasukata-b.jp</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松浦 賢長 (Mstsuura Kencho) (10252537)	福岡県立大学・看護学部・教授 (27104)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中西 愛 (Nakanishi Ai) (10965883)	関西医科大学・看護学部・助教 (34417)	
研究分担者	北川 明 (Kitagawa Akira) (20382377)	順天堂大学・保健看護学部・教授 (32620)	
研究分担者	黒髪 恵 (Kurokami Megumi) (30535026)	福岡大学・医学部・講師 (37111)	
研究分担者	山住 康恵 (Yamazumi Yasue) (30553052)	共立女子大学・看護学部・准教授 (32608)	
研究分担者	日高 艶子 (Hidaka Tsuyako) (50199006)	聖マリア学院大学・看護学部・教授 (37125)	
研究分担者	太田 祐子 (Oota Yuko) (70349778)	関西医科大学・看護学部・准教授 (34417)	
研究分担者	西村 優紀美 (Nishimura Yukimi) (80272897)	富山大学・保健管理センター・客員准教授 (13201)	
研究分担者	上山 千恵子 (Kamiyama Chieko) (90751587)	関西医科大学・看護学部・講師 (34417)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中嶋 恵美子 (Nakajima Emiko) (30461536)	下関市立大学・新学部設置準備室・特命教授 (25501)	
研究分担者	塚原 ひとみ (Tsukahara Hitomi) (20555403)	下関市立大学・新学部設置準備室・特命教授 (25501)	
研究分担者	佐藤 亜紀 (Sato Aki) (80435130)	下関市立大学・新学部設置準備室・准教授 (25501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関